

“ちいさな企業” 発展会議（岐阜県多治見市）
議事概要

中小企業庁

- ・ 日時：平成27年2月24日（火）14：00～16：00
- ・ 場所：岐阜県多治見市（多治見市産業文化センター）
- ・ 中小企業・小規模事業者、支援機関、地方自治体の取組を御紹介いただくとともに、意見交換を行った。
- ・ 参加者からの主な御意見は以下のとおり。

＜中小企業・小規模事業者＞

- 地域の事業者10社以上で連合して3年連続してフランクフルトの国際見本市に出展している。メイドインジャパンとして商品企画力、デザイン力を増やしていくと、必要な資金が年々増えていく一方、使える支援措置は減っていく。海外見本市への出展補助等は使い勝手を良くしてほしい。
- 地域資源を活用して、営業ゼロから始めて、市、県、国の支援を得て事業を継続しており、感謝している。展示会出展への資金、ノウハウは有り難い。
- 地元の多くの職人は後継者不足。国・県の支援を活用できる企業とそうでない企業があり、一部の人しか施策情報を知らない。情報共有が重要。
- 補助金申請について、人手が不足している小規模事業者は申請を出すのも大変。
- 女性の社会進出の話では、育休を3年とることより、1年休んで保育園のサポートが十分得られる復帰サポートがある方が良い。介護も育児も一緒に女性にだけ負担がかからないようにすることが、個人にとっても会社にとっても良い。
- 自社の業務・業種に直結している補助制度は知る機会があるが、中小企業者向けのその他の補助制度は知る機会が少ない。もう少し情報が入ってくると良い。
- 海外展開に挑戦する際には、人材・資金の問題がある。補助金は助かるが、書類作成・準備が大変で、用語を理解するのに時間がかかる。チャレンジしたい気持ちはあるが、書類の作成は負担なので、簡素化をお願いしたい。
- 中小企業はオリジナル商品を出すのは難しく、大学の研究室や専門家のアドバイスをいただくための支援があると良い。

- ベテランのパートはレベルが高いが103万円の壁があり、時給を上げると勤務時間を減らさなければならなくなるので、改善してほしい。
- 中小企業でも、企業活動が円滑にできるよう税制改革をお願いしたい。
- 中小企業はオーナー企業が多く、長期の経営計画ができる。企業を大きくさせることより、持続できるよう中小企業向けの税制をお願いしたい。
- 商店街で補助金を活用して、毎年イベントを開催している。空き店舗対策では、出展者に対しては補助金が出るが、店舗を貸す側からすると、内装を整備する補助制度があると良い。
- 補助金の申請に当たり、現場に来ていただけないか。そうすれば、不要になる書類もあると思う。また、補助金の公募では、採択結果が出るのが半年先というのがあるが、企業としては明日にでも事業を実施したいと思うものであり、改善できないか。
- 社員の定着、労働環境の整備など普通の事に対して補助をお願いしたい。

<支援機関・自治体>

- 支援が必要な所に施策情報がきちんと伝わる仕組みが重要。
- 新しい施策だけではなく、既存制度を分かりやすく使いやすくしてほしい。また、経産局に支援制度のワンストップ窓口の設置をお願いしたい。
- 国の事業の公募が突然始まり、すぐに終わるケースがある。公募期間は十分取って頂きたい。また、県が関与する仕組みが望ましい。
- 事業引継について、民間の仲介業者が仲介した際には手数料が発生し、仲介業者によって金額が異なるので、安価にできる仕組みが必要。



以上